

移動するもの留まるもの

— 備北地域の旧石器から考える —

辻 満久

(公財) 広島県教育事業団
埋蔵文化財調査室

1 はじめに

従来から散発的に発見されていた三次庄原を中心とする中国山地沿いの地域で近年の発掘調査によって比較的まとまって旧石器時代の遺跡が発見された。それらの遺跡の多くは年代が判明する地層（火山灰層）を伴っており、この地層を目安として年代を特定できる。

その結果、発見した遺跡がいずれも AT（広域火山灰の一つ：噴出年代はおよそ 29000 年前とされている）降下以前に形成されたものであることが判明し、列島内においても古い様相を示す遺跡が多い地域として注目されつつある。

2 旧石器時代とは

石器の種類

年代決定の方法

環境

遺構

セトルメントパターン

集団の規模

別視点からの石器の見方

動作連鎖

3 備北地域の旧石器時代遺跡

只野原 3 号遺跡

向泉川平 1 号遺跡

段遺跡

和知白鳥遺跡

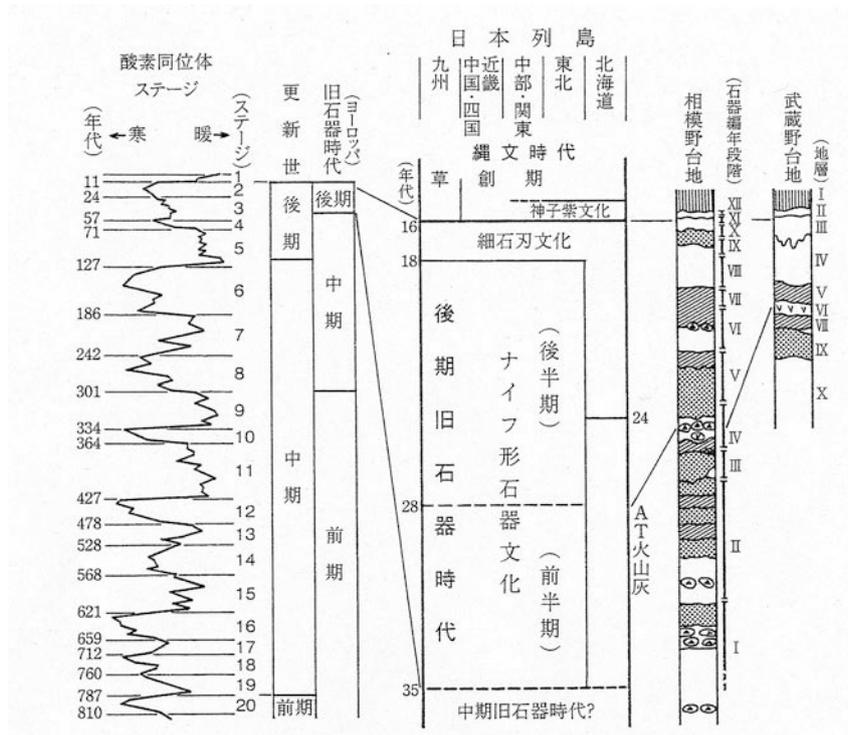
下本谷遺跡

地宗寺遺跡

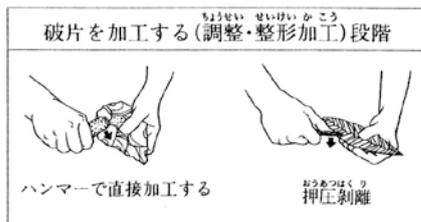
4 まとめ

移動するもの

留まるもの

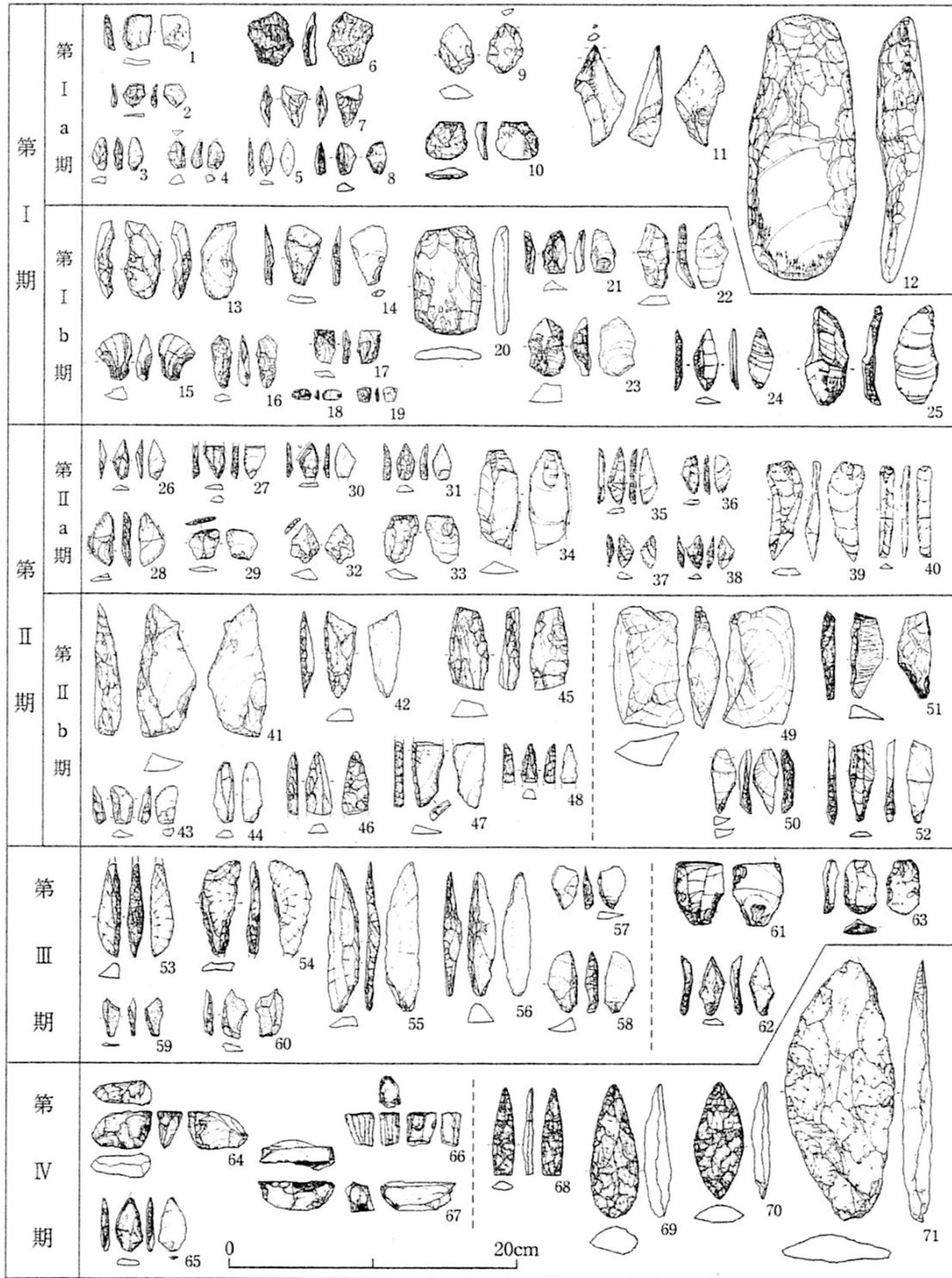


列島の旧石器時代の位置付け

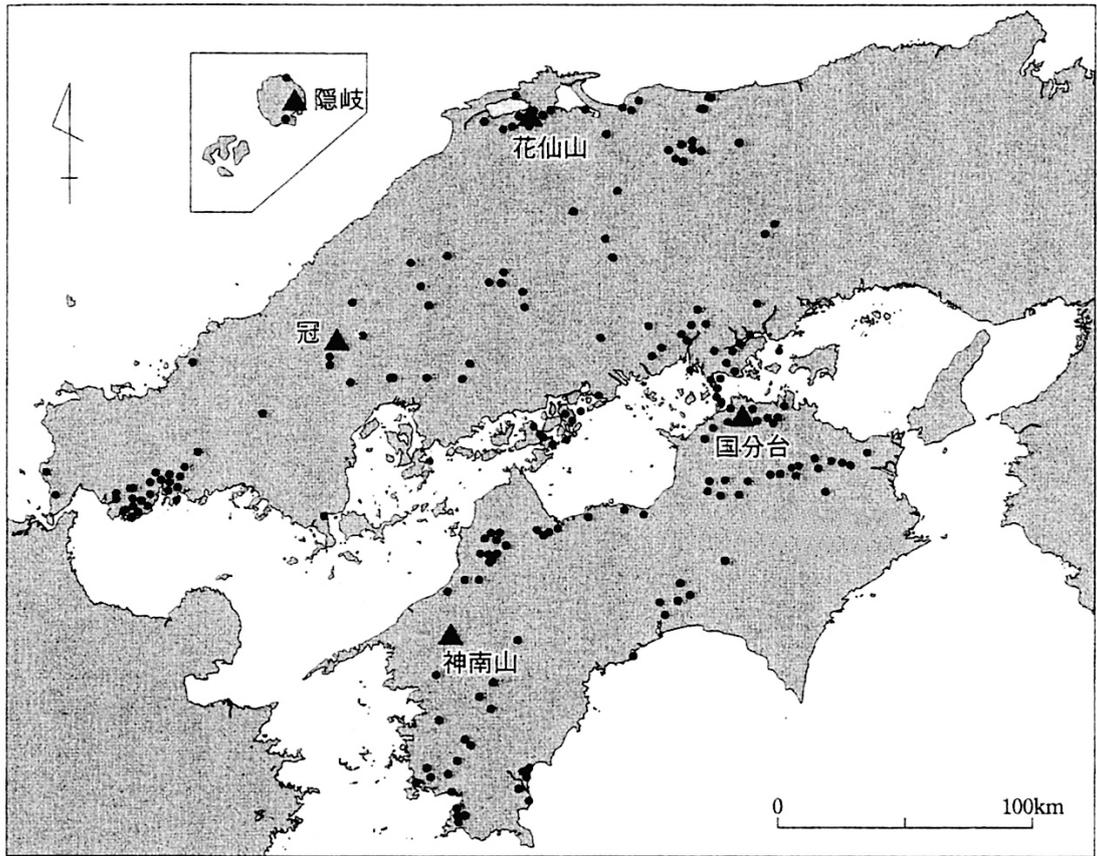


石器	主な用途	主な使い方
打製石斧	たたく 割る 切る 掘る など	
ナイフ形石器	切る さす など	
削器 (サイドスクレイパー)	けが 削る 切る など	
掻器 (エンドスクレイパー)	掻く	
彫器 (グレイバー)	ほ 彫る 刻む	
楔形石器	割る	

石器の製作方法 (左)・石器の“かたち”と“用途”



中四国地方の石器の移り変わり



中国四国地方の主要な遺跡分布図（上）・中国地方想定交通路（下）